

これから博物館

1班

博物館の課題

- 静かすぎる博物館
- 宣伝方法を工夫すべき
- 期間限定などの展示がない（もう一度来る魅力がない）
- 将来の世代に有益でない（SDGs等）
- 旧博物館をどのように利用していくのか
- 市の予算がない
- 施設問題、立地問題

特に取り上げた課題

将来の世代に有益でない

- SDGsへの配慮

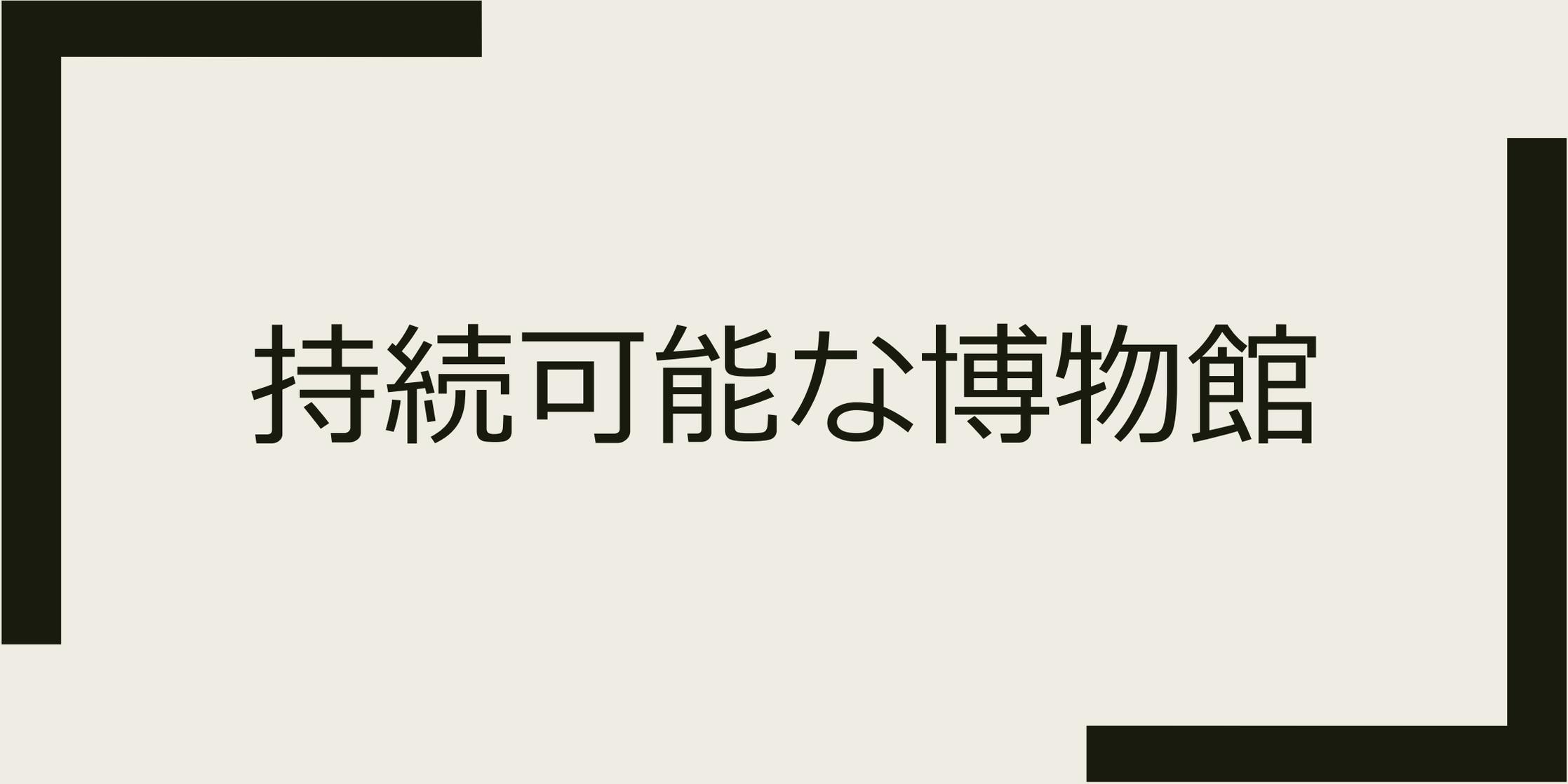
→④質の高い教育

⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに など

- 博物館は観光の要素だが、オーバーツーリズムなどの観光による環境への負荷に対処する必要がある

この課題を取り上げた理由

- 施設問題や、予算などの問題は、お金の問題であり、私たちでは解決できない問題であると思った
- それに比べ、「将来の世代に有益でない」という課題は、博物館見学や、関係者の方のお話を聞き、SDGsなどの観点がなと感じたので取り上げた



持続可能な博物館

- 観光客だけでなく、地域の人々にも親しみを持って足を運んでもらえるような総合ミュージアムにする
- そのためには、**SDGs（持続可能な開発目標）**に配慮し、持続可能なミュージアムを目指す



SDGsとは？

- 2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）別ウィンドウで開くの後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標
- 発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なもの

1.貧困をなくそう

2.飢餓をゼロに

- フェアトレード製品を博物館にショップを設けて販売する
- 募金箱の設置

4.質の高い教育をみんなに

- 北海道は学力が全校的に見ても低い（全国で下から9番目）
- また、函館市の小中学生は全道の平均よりも学力が低いという結果
- 勉強が楽しいと思ってもらえるような仕組みを作る
例：友達と一緒に回れるツアーなどを開催

5. ジェンダー平等を実現しよう

8. 働きがいも経済成長も

- 展示物にジェンダーの偏りがないようにする
- 学芸員は男性のイメージがある
→ そのようなイメージを払拭する取り組みをする
- 博物館も利益を求め、それを次の展示や施設整備などに生かせるようにする
- 働く場所を作る（仕事を増やして雇用を生み出す）
- 障がい者雇用の推進

7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- 太陽光パネルの設置
- 敷地内に緑を増やす
- 再生可能エネルギーで博物館は動いていることをアピールする
→再生可能エネルギーを知ってもらうきっかけにする

11.住み続けられるまちづくりを

- 博物館を起点に、観光誘致をする

→展示物の多言語化をすることによる来館者の拡充

- 教育と文化の起点になるようにする

- 地域のコミュニティの中心

→立地をどうするか

12. つくる責任、つかう責任

- 展示物を保護するときなどに使うものを何回も使えるものにするなど工夫する
- なるべくごみを出さない
- リサイクルでできた展示品もイベントなどで展示する

まとめ

- 今回、施設問題などは私たちが提案できるものではないと考え、SDGsについて考えた
- SDGsは、持続可能な博物館を作っていく上で大切なことがたくさんある
- 今回取り上げたSDGsの例以外にも、持続可能な社会を作るために博物館を作ることは多い
- 観光客はもちろん、市民が足を運びたいと思ってもらえるような博物館になることが大切だと考える